

人物列伝

The Legacy
of Our
Forefathers

九十九里地域の中核都市として発展してきた東金市。その背景には礎を築いた先人の努力や活躍があります。中でも江戸時代から明治にかけて、多くの優れた先人が名を残しました。市内には、先人たちの面影を残す場所が点在しています。

「義人(正義の人)」として敬重される名主

市東刑部左衛門 (1574~1605)

大多和四郎右衛門 (1595~1643)

Gyobuzemon Shiro & Shiroemon Orawa

慶長10年(1605)に起こった飢饉のため、市東刑部左衛門は役人に、むこう2年間の年貢米免除と幕府の備蓄米を農民に施してもらえよう願い出ました。しかし役人は、逆に年貢を2割り増しで納めるよう命じ、刑部左衛門を罵倒したため、怒った刑部左衛門は役人を斬り殺し、米倉を開放して村人に米を分け与えてしまいました。責任を取って自害した彼の遺体を村人たちは運び出し、旧丘山村黒田境の地に埋めて塚を造り、彼の徳を偲びました。

また、寛永19年(1642)にも干ばつがあり、人々の惨状を見かねた名主の大多和四郎右衛門が、何度



今は木戸公園に移された市東刑部左衛門の墓(日吉台)

も領主・堀田氏に米倉の米を農民に分け与えてくれるよう訴えましたが聞き入れられず、尊敬する市東刑部左衛門にならって無断で領主の米倉を開き農民たちに分け与えてしまいました。彼がその重罪を詫びるため自刃した場所には供養塔が建てられていま

「医は仁術」を実践した医師

関寛斎 (1830~1912)

Kansai Saki

東金市東中に生まれた関寛斎は、18歳の時に医師を志し、佐倉順天堂で蘭医・佐藤泰然に学び23歳で帰郷し、銚子で開業します。30歳の時、長崎にきていたオランダ人の名医ボンペに弟子入りをした後銚子にもどり開業医を続けますが、文久3年(1863)、徳島藩によれば藩医になり、慶応4年(1868)軍医



関寛斎の銅像(東岩崎)

をわけへだてなく治療しました。

明治35年(1902)、寛斎73歳の時、北海道十勝の斗満(とまむ)原野の開墾に従事します。厳しい環境での生活に耐えながら、アイヌや農民のために医療を行いました。

相撲界の改革を進めた力士

高砂浦五郎 (1838~1901)

Uragoro Takasago

東金市大豆谷出身の高砂浦五郎は、安政6年(1859)、22歳の時に江戸に出て、阿武松庄吉に入門し、初土俵をふみました。

当時の相撲取りは、大名に面倒をみてもらい生活しており、連戦連勝の浦五郎も姫路藩主酒井氏のおかけえ力士となりました。

浦五郎は力士として活躍し、後年、高砂部屋を創

東金の生んだ画家

安川柳溪 (1819~1898)

飯田林齋 (1821~1869)

Ryukei Yasukawa & Rinsai Iida

安川柳溪は中央にも名前を知られた絵の大家であり、学者としては「上総国誌六卷」をまとめました。また、著書「刀祢之河ふね」などで、書家としても才能を発揮しました。



安川柳溪

当時、芸術家や学者が地方の裕福な商家を拠点として活動することは珍しくなく、南宗画家・高久靄涯が岩崎の飯田家を頼って東金に滞在した際、飯田林齋は柳溪とともに靄涯から絵を習いはじめました。二人はみるみる上達し、やがて林齋は「東金靄涯」と讃えられるほどになりましたが、彼の絵はあまり残されていません。しかし「東嘉園」という茶園の全景を描いた『東嘉園画卷』と題する12枚の絵が残っており、茶園経営者の大野伝兵衛はこの絵を見て「実景に近し」と言って喜んだそうです。

商業都市東金を象徴した豪商

水野茂右衛門 (江戸時代・生没年不詳)

Moonon Mizuno

水野茂右衛門は、当時上総木綿の生産取次地や九十九里漁産物の集積地であった商都東金を代表する豪商でした。上宿で酒と醤油の醸造業を行って巨万の富を築いたと言われており、東金のみならず房総の各地で豪華な生活ぶりを謳った唄が歌われ、その

設するとともに、当時一部の年寄により私物化された旧態依然たる相撲界の体質を改め、二派に分裂した相撲界を和解させました。

相撲界の改革と発展をめざす浦五郎の努力により相撲が「国技」として認められ、現在の相撲協会の基礎が確立されました。



初代高見山大五郎当時の錦絵

東金の生んだ偉大な儒学者

櫻木闇斎 (1724~1804)

Ginsai Ogi

櫻木闇斎は江戸の大儒者・稲葉迂斎について朱子学を学び、上総道学八子の一人として東上総地域の庶民を教導しました。上総道学とは、江戸時代中期、享保~寛政年間(1700年代前半~1800年代初期)に、成東・松尾・東金・片貝・大網を中心とした山武地域の農民の間に普及した道学で、稲葉迂斎・黙斎父子により広くひろめられました。寛政元年(1789)、

闇斎は幕命を受けて長崎聖堂の教授となり、5年にわたって多くの長崎市民に性理学を講じました。



「道学墓」と呼ばれる櫻木闇斎の墓碑(東金)

歌詞は現在までも伝えら

れています。紀国屋文左衛門や奈良屋茂左衛門と比べられ、「唐金茂右衛門東髷」という芝居まで上演されて大評判をとったとも言われ、嫁探しを題材にした唄は、やがて麦つき唄や摺臼唄などの労働歌謡から安房でのお座敷唄となり、東金節という流行歌謡ができるまでに普及しました。



水野家一族の墓(東金)

奉仕の精神を重んじた豪商

大野伝兵衛 (八代目秀頼) (1830~1876)

Danbei Ono

大野家当主は代々「伝兵衛」を名乗り、六代目の秀澄のころ「一角丸」という小児用漢方薬を製造販売し、豪商となりました。

八代目秀頼のとき、安政5年(1858)に江戸でコレラが流行した際に、大野家では家伝薬を大急ぎで江戸まで運び、無料提供して人々の命を救う手助けをしました。大野家では世の中全体を良くするために、分に応じた奉仕をしようという気風があつたのです。また、秀頼の業績で有名なものに、文久年間から明治中期にかけての東金茶園の経営があります。その茶は大変評判が良く、有栖川宮熾仁親王から「東嘉園」という名



有栖川宮熾仁親王自筆の額

まで賜り、アメリカへ輸出されるようにもなりまし

博識の天才学者

佐藤信淵 (1769~1850)

Nobuhito Sato

明治6年(1769)に出羽国に生まれた佐藤信淵は、16歳の時、江戸に出て医学と蘭学を学び、天文、地理、暦法、測量から砲術、戦術、海防など広く知識と技術を身につけ、世の中に広めました。

また、300種類をこえる多くの農政、物産、兵学などの論説を著しました。その後、東金市大豆谷



石碑「佐藤信淵家学大成の地」(大豆谷)

に移り住み、農民や門人たちに養蜂、養蚕、野菜・果物・菊・綿の栽培、米の増収法など進んだ農業技術を指導しました。大豆谷では藍葉づくりを教え、作る人が多くなり、高値で売れて人々の暮らしが豊かになったといいます。

Togane has grown as one of the core cities of the Kujukuri region. A lot of our good fortune is due to the efforts of our forefathers. Today, many sites bear the names of prominent citizens from the Edo and Meiji periods. There are also many tangible reminders of their legacy throughout the city.